

四 平成十年度事業

(一) 事業工区

- 第一工区 (三郡境の塚から大内ダム)
- 第三工区 (大内宿南一里塚から沼山集落)
- 第四工区 (沼山集落から中倉集落)
- 第五工区 (桜山集落から倉谷宿)

(二) 整備内容

整備工事は、第一工区と第三工区間において、旧街道の要所及び交差点に標柱三基、大説明版二基、小説明板八基、案内標識十二基を設置した。また、大内峠の二筋に分かれた区間においては、関係機関の指導の基、これを階段で繋ぎ双方楽しめるルートとした。そのほか南一里塚の保護柵、木橋の工事を行い平成十一年の「歩き・み・ふれる 歴史の道 会津大会」に備えた。

直営による旧道調査及び道路路面整備については、第四工区も終え、桜山・倉谷間に入るが、峠道を降りた時点で道筋はパタリと消える。道筋と思われるヶ所に何本もトレンチを入れてにるも、遂に旧道は発見されなかった。旧道は「右ハ山左ハ若松」と彫られた道標の前後から再び姿を現し、倉谷宿に入っていた。

峠の茶屋遺構の発見から、大内峠休憩施設については検討が続けられた。結果として茶屋遺構に忠実に復する建物で休憩施設とすることが決まり、茶屋の基本設計を委託した。また航測の成果である図下についても、倉谷宿までを委託した。

五 平成十一年度事業

(一) 事業工区

- 第四工区 (沼山集落から中倉集落)

第五工区 (桜山集落から倉谷宿)

第六工区 (倉谷宿から長野の渡し)

(二) 整備内容

倉谷宿から榎原宿、長野の渡しに至る区間は、県道、林道国道となり、全ての区間において拡幅されアスファルト舗装となっていると思われたが、矢ノ原林道を南側に下り八幡峠の登りとなる所から八幡神社前までは砂利道となり、道幅も旧道の道幅である二間と変わっていないことから、歴史の道として生かすこととした。また、八幡峠頂上では現在の道筋から東に折れる道も姿を出し、再び現道に戻っている。この区間約一五〇mであるが、つづら下りとなっており、往時を偲ばせる感が大である。

整備工事は、第四工区から第六工区の区間に標柱二基、大説明版一基、小説明板七基、案内標識十七基を設置し、沼山榎原宿間における主として峠部分で、横断溝八ヶ所(約五四m)、木橋二ヶ所(約三m)、階段工等を実施した。また、峠の茶屋実設計委託とともに茶屋の復元工事も行った。航測の成果である図下についても長野の渡しをもつて完了となった。